

「人生の旅立ち」を考えてもらうための冊子「生き逝き手帖」の 効果を調べるための調査にご協力ください

みなさんをお願いしたいこと

冊子「生き逝き手帖」を読んで、アンケート用紙に、感想をお聞かせください

「生き逝き手帖」を作成した背景

病院に救急搬送されて生命維持装置などが施された人が、回復の見込みがないことが明らかとなっても、本人の意思がわからない場合は、治療を中止することは難しく、本人がその状態を望んでいなくても、続けられることになります。本人の利益になっていない治療をしたり、本人が望んでいないことするのは、よいことではありません。

これらの状況に対応するため、厚生労働省や学会などでは、終末期医療に関するガイドラインを出して、本人の意思を尊重することを基本とし、家族や医療者が合意して治療中止などを判断することを行っています。しかし、人生の旅立ちの際の過ごし方について意思を表明している人は非常に少ないため、病院では、患者さんの意思を知ることができず、これが大きな問題になっています。

「生き逝き手帖」の目的と内容

意思を書き記すための書式は、市販のエンディング・ノートなどもあるのですが、人生の旅立ちを考えたり、それを書いたりすること自体、縁起が悪いことですので、しんどいことです。そこで私たちは、人生の旅立ちについて、どう考えたらよいか、家族や知人と話したらよいか、などをわかりやすく紹介することで、みなさんの考えるきっかけにしたいだけなのではと考え、「生き逝き手帖」を制作しました。つきましては、内容をご覧いただき、「人生の旅立ちについて、考えようと思ったか」などの感想をお聞かせ願えれば幸いです。

調査の方法

ご記入いただいたアンケート用紙は、お帰りの際に回収箱にいれてください。アンケートは、無記名ですので、個人が特定されることはありません。また、無記名のため、一度ご提出いただいたアンケート（記載内容）について、返却することはできません。

アンケート結果は、調査責任者及び研究実施者が集計してまとめ、論文や学会などで報告します。

なお、この調査への協力は、自由意思に基づくものですので、ご希望でない場合は提出していただかなくても結構です。

調査責任者

佐藤 恵子

京都大学医学部附属病院 医療安全管理部

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54